

福島県南相馬市の雇用創造事業の一環として「職場のメンタルヘルス対策講座」が昨年八月から始まりました。困難な地域の課題解決に取り組むためには、職場や家庭、地域での人間関係や心のケアなどについて、高度なコミュニケーション能力、心理学の知識を持つ人材を育成する必要があります。メンタルヘルスケアが専門の私は、通算十二回にわたって開催された講座の企画からかわり、講師を務めました。

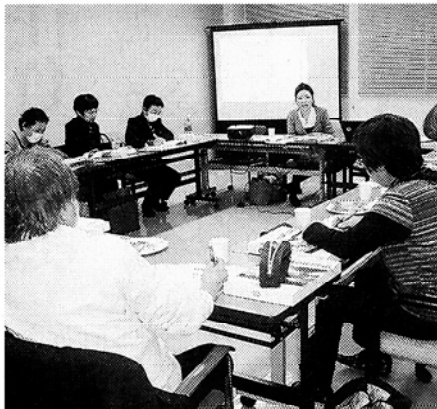
私が初めて南相馬を訪れたのは二〇一〇年のことでした。ホッキ貝の料



ランスタッド
EAP総研所長
川西由美子さん

東北復興日記

34



未来のため仲間と共に

理を提供するお店が数多くあり、松川浦の海苔などの海産物やおいしい米、みずみずしい果物がふんだんにある、海と山の幸に恵まれた美しい土地だったことを、覚えて

います。当時のメンタルヘルス対策講座を受講された南相馬の方々は前向きで、人に関する興味もはるばる足を運んでくださいました。写真。土にふれたくても作付けできない苦悩。ようやく二年ぶりに一時帰宅を果たした住まいは、タンスの中までネズミのすみかに。自宅に帰れたかったのに、もうあの家には住めない、この現状を伝えてほしいと涙ながらに訴える人もありました。

そして震災から二年きかない苦悩。ようやく二年ぶりに一時帰宅を果たした住まいは、タンスの中までネズミのすみかに。自宅に帰れたかったのに、もうあの家には住めない、この現状を伝えてほしいと涙ながらに訴える人もありました。

「震災直後は知識を学ぶことなど考えられなかった。しかし、今は未来のために何をすべきかを考えられるようになった」という言葉も聞きませぬ。「時薬」が必要で、それでも心を支える知恵を身に付けたい。仲間と共に何かできるのではないかとこの期待感がわきます。地域再生に向けた力強い取り組みが広がってきていることを実感します。

この連載は、東京のNPO法人「女子教育奨励会」と、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。